

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩 1階		
所在地	静岡県清水区船越二丁目7-91		
自己評価作成日	平成27年 11月 23日	評価結果市町村受理日	平成28年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 11月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎日リハビリ体操やラジオ体操で身体を動かしています。レクリエーションでは1・2階の入居者様合同でカルタ取りやボール遊びをしています。ご家族やボランティアのご協力で音楽会を開催しています。天気の良い日は駐車場のベンチで1・2階の入居者様が外気浴やレクリエーション、歩行訓練などを行っています。壁には毎月の貼り絵や行事の写真が掲示してあります。行事のようすはブログにも掲載しています。ご家族には毎月入居者様の様子と桜の詩通信を郵送しています。入居者様は緑の中で四季を感じながら、のんびりと暮らしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者は毎日のように駐車場のベンチでの外気浴や散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わし触れ合う機会がある。管理者は毎日同じではなく刺激のある生活をと行事担当職員を中心に1階2階合同でレクリエーションを行い、外に出ることによってお互いを気遣う利用者同士の姿が見られると家族にも協力を依頼し外出支援に取り組んでいる。隣家が大家で七夕の竹笹を届けてくれたり、施設の祭りで販売用の野菜を提供など応援してくれている。防災委員を中心に毎月地震・火災・土砂・水害等の夜間も想定した防災訓練を行い、地域の防災訓練にも職員と利用者が参加している。事故対策委員会は家族の参加が多い推進会議で具体的に転倒などの様子を報告し拘束に繋がらないケアに取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の通り、入居者様の笑顔の絶えない明るい毎日になるように心掛けています。散歩に出掛け、地域の方達とのふれ合いを大切にしています。	開設当時についた「笑顔の絶えない明るい毎日を支援します」という事業所理念をタイムカードの位置に掲示しており、職員は出勤時に読んでから仕事を始めるようにしている。月1回ミーティング時に話し、共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の組合に加入しており、避難訓練やお祭りに参加している。子供会の子ども神輿に、ホームの駐車場に寄ってもらい、子どもたちとのふれあひも楽しんでいる。	管理者は毎年4月町内の役員(組長)が変わった時挨拶に出かけ、近くの福祉センターや生涯学習施設での勉強会などに参加している。隣家が大家で七夕の竹笹を用意してくれるなど協力してもらっている。利用者は毎日散歩して地域の人たちと挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会の方の参加を求め、ホームの様子を伝えている。入居者様と共に地域の行事に参加することで、認知症の人の支援等、理解を頂けるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第四土曜日と定め関係各所に年間のお知らせハガキを毎年送っています。会議ではご家族や市町村、地域の代表の方に参加頂き、ホームでの出来事を発表し、ご意見を伺っています。またその写真を掲示して、ご覧いただいています	毎回家族の参加を得て、定期的開催している。利用者状況や各委員会の活動報告から事業所の様子を伝え、利用者の変化等を理解してもらっている。医師・薬剤師の説明を聞き家族からの質問に答えるなど、議題を家族が参加しやすいものにする工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の年間予定を毎年通知している。講演や研修等に参加している。	市・包括から案内のある研修会には参加するようにしている。生活保護受給者の受け入れをし生活支援課とは連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会や研修、カンファレンス等で話し合い、間違った知識を持たないように努めている。	ナースコール代わりに呼び鈴に気づくよう少し扉を開けておくことで夜間でも職員がすぐ対応できるようにしている。「立たないで」「待つて」と行動制限するのではなく、理由を考えてケアの工夫をするよう意識し、その人に合わせ拘束をしないケアに取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修等で学び、言葉遣いや対応等は日頃より気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を利用している入居者様は少ないこともあり、この制度について理解している職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様からの質問、疑問には誠意を持って対応にし、具体的に説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や介護計画の説明の際、ご家族にはご意見等伺えるように、こちらから話し掛けるようにしている。玄関に意見箱を用意している。入居者様には日頃から話しやすい雰囲気を作るように心掛けている。意見や要望は職員、管理者が情報共有して話し合いの機会を設けている。	管理者は家族に気軽に話してもらえよう立ち話で日常生活の状態を伝え意見を聞いている。聞いたことは申し送りノートに記録しカンファレンス時に検討するようにしている。金銭管理は家族の協力を得て預かり金はほとんどなくなるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や研修、カンファレンス、時には個人面談を行い職員の意見や提案を管理者会議等で話し合っている。	事故対策委員・防災委員・研修委員・レク・行事担当委員など各委員会で意見を出し合い提案し実践している。職員は気軽に意見を言い易い環境であり、シフト希望等は概ね叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格による昇給がある。 職場環境については定例会で話し合いの機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月に一度、定例会の時に開催している。外部研修については常時掲示し、受講した物は、研修報告を行い皆で勉強する時間を設けている。		

静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に出掛けることにより、どう業者との交流に努めている。見学等随時オープンにしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望されている暮らし方、今までどんな生活を送ってこられたかなどを伺い、職員一人ではなく全員がその情報を共有し、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談を行い、ご家族の諸事情を踏まえ、安心して生活していただけるよう話し合いをしている。医療機関とも連携し健康面でも支援できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族と話し合いどちらの意見も取り入れて介護計画を立て必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物干し・畳む事など、個々の力に合わせて分担し、行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との面会・外出が自由に出来ることや電話で話すことなどの支援をしている。面会に来られたときには、最近の様子等を報告させていただいている。また月次報告書や桜の詩通信をご自宅に送らせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年間行事を組み、ご家族にその都度お知らせをし、参加をお願いしている。御家族との外出や外食も自由に出来るよう日程を調節し支援している。	家族と連絡を密に取り、出来る人には継続して年賀状・暑中見舞いの葉書き・手紙などを出す支援をしている。S型デイに参加している人やクリスチャンの友人・知人の訪問がある。家族と馴染みの食堂へ行っている利用者がいる。	

静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ドライブや外食、散歩等、日頃のレクリエーションでも全員参加で交流を楽しみ、共に暮らす仲間としての意識を高めていただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方が次の施設等に移る際は、当ホームでの情報を提供している。その後も季節毎の挨拶状を失礼のないように送っている。また退去された方の御家族より収穫された季節の野菜を届けてくださることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、希望を聞き出し、その方に応じたケアプランを立て支援している。ご本人に伺うことが困難な場合は日頃の様子から職員で検討会を開催し、意見をまとめその方に応じたケアを行っている。	入浴時・トイレ介助時・居室で就寝介助の1対1になった時日常会話の中で思いや意向を聞き、以前の職業や暮らし方を知り検討している。表出が困難な人に声掛けの工夫で表情をみて思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はアセスメント表に出来るだけ詳しく記入し、職員が情報共有している。入居後は生活を始めてから分からないことなどは御家族に伺ったり、入居者様との会話の中から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意向や希望の把握に努め、日々の様子や情報を申し送り、職員間で共有している。月に1度のカンファレンスで現状の把握や情報・意見交換をしている。日々の様子を写真を添えて報告書をご家族に送っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し課題やケアの方法について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を聞き、居室担当職員の司会でカンファレンスを行い話し合っ計画に反映させている。歩行練習の取り掛かりが困難な時に家族の声掛けや一緒に歩行する等協力を得て訓練開始が実行されたことがある。状態が変化した時は医師の話に家族が同席し計画書の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録だけでなく、特記録や申し送りノートの記録等で情報を共有しケアプランに活かしている。		

静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームドクターによる月2回の往診や相談、不穏時には個別にドライブや散歩に出掛けている。天気の良い日はテラスや表のベンチ、近隣に外出や外食、おやつを食べに出掛けたりとアクティビティに生活支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御家族と共に外出の機会を作っていただいている。地域の行事やお祭りに参加し、近隣のお知り合いとの交流を支援している。近隣にある高校の将棋クラブの生徒さんたちがボランティアで来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターやかかりつけ医を御家族の意向を伺い決めている。受診時には日頃の生活や身体状況をお知らせしている。処方薬については、入居者様との契約による薬局の薬剤師と医師の連携により服薬管理ができています。	以前からの主治医に事業所からの情報提供を持参し家族が同行受診の人もいるが概ね4月から協力医に変更している。月1回訪問受診、月2回の往診があるが、他科受診も可能で毎日のように誰かのところへ往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、入居者様の日々の様子や変化、バイタルなどを伝え指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師との情報交換を行い、体調や食事の様子、薬などを聞きホームでの生活相談をしている。またホームドクターとの連携も出ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族・主治医・ホームの三者で良く話し合い、ホームでできる事、出来ない事を説明し納得できた上で、その後のことを決めるようにしている。現在まで終末期をホームで向えた入居者様はいない。	入居時に事業所の方針を家族に説明をしている。異変があったときに家族に意向を確認し、家族の協力がなければ看取り介護は出来ない旨を伝え、医師の判断で3者で話し合うようにしている。重度化や終末期ケアの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急法の講習を順に受けている。対応をマニュアル化し、即時に対応できるように努めている。ホームドクターや看護師に相談や指示が即時、出るようになっている。		

静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行ない、全ての職員が対応できるように努めている。入居者様にも参加し頂いている。地域の防災訓練にも入居者様数人と参加している。会社全体でも災害計画を進めている。	防災委員を中心に計画し毎月火災・地震・地震から火災・土砂・水害の夜間・日中を想定した訓練を利用者も参加して行っている。年1回は消防署が来てアドバイスを受けている。防災委員は訓練後反省し課題を見つけ次回に繋げるようにしている。隣家の大家と民生委員の協力も得られる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対象が特定できない方法で会話をしている。親しい仲にも礼儀あり。と言う立場を心掛けている。	職員は利用者の目線に合わせて、言葉使いに気を付け穏やかな対応をするようにしている。接遇について入職時教育を受けているが、慣れてきて声掛けやケアでの不適切な対応が見られたときは先輩職員がその都度注意し教えるようにしている。	「その人そのために」の法人の理念に沿って職員は同じ方向を向き、利用者の人格を尊重した個別ケアの統一を図る取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を具体的に表現できるような話しかけや傾聴に努めている。自己決定が自己実現となるような介助を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の基部を優先し、見守り介助支援を行い、本人のペースに合わせ、安全・安心な生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を優先し、声掛け、見守りにて清潔感のある装いを保っている。御家族の協力も得て、衣替えやタンスの整理を行い、季節感を損なわないように注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物を伺ったり手作りのおやつや、外食などを楽しめるように努めている。食事の準備や片付けは個々の力に合わせて皆様が積極的に行っていたいっている。	食材の買い物に利用者と行くことがあり、当日は刺身・剥き身・シラス丼で楽しめるようにしている。冷蔵庫の食材で職員は3食手作りし、テレビを消してBGMを流し同じテーブルで会話をしながら見守り同じ物を一緒に食べている。おやつは希望を聞き、かき氷や綿菓子など一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や特性を理解して提供している。過不足についてはドクターや看護師に相談し細かく調整している。		

静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの見守り、介助、義歯の洗浄と消毒、コップやハブラシの洗浄、消毒用品管理も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し必要に応じ、声掛け誘導を行っている。リハパン、布パンツ、パットの大きさ等も個別に応じ、対応している。	排泄量・状態・時間等個別に細かく記録した排泄チェック表をつけ、時間・生活パターンを見て適時の誘導でトイレ排泄の支援をしている。厚揚げ・牛乳・バナナ等腸に良い食べ物や毎朝水道水を飲むなど調整をしている。失敗は逆効果になる事と細かな個別対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄を表に残し、観察している。ドクター、看護師、薬剤師に報告し相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴順など希望にあわせている。入浴表を作り、清潔を保てるよう心掛けている。個々の外出や行事等に合わせ、柔軟に取り組んでいる。入浴日ではないときに足浴を行い感染症などの予防にも努めている。	午後1時半から3時半までを入浴時間とし(午前は足浴)一人ずつ湯を取替え好みの入浴剤を聞くなどして楽しめるよう支援している。入浴表を見て週3回は入っている。同姓介助の希望に応じ、拒否する人に「受診があるから」「外食に行くので綺麗にしましょう」など声掛け上手に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などに合わせて自室での休息を促し、健康管理に努めている。また空調管理のしている。夜間の睡眠を考え、外気浴や散歩、レクなどを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指定の薬局との報告、連絡、相談を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力やその日の体調に合わせて、家事やレクリエーションを楽しんでいる。		



静岡県(グループホーム桜の詩 1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴をしている、公園に行かれる幼稚園児や散歩する方と挨拶をかわし、戸外で歌を歌い日光浴をしている。ご家族の協力や外出行事で出掛ける機会を作っている。	駐車場の横に人数分座れるベンチが置いてあり、1階・2階の人と交流しながら外気浴をしている。天候を見て曇っていても毎日外に出るようにし、近くの喫茶店にお茶を飲みに行くことがある。家族と外食など出かける機会があり、外出レクリエーションに家族が参加することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をホームで行っている方や、自室にお小遣いを置いている入居者様があります。残額の調整は御家族にお任せしています。お財布を持って出かける支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも御家族等に電話を掛けられるように支援しています。季節のご挨拶状をお出しする支援もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時刻により照明や空調管理に努め、安心して過ごして頂けるように心掛けています。月ごとに歌を決めて食事の前に皆様で歌い、カレンダーを皆様で作り季節を感じていただいています。テラスでは朝顔やトマト、ナスなどを栽培し楽しんでいます。テラス前はみかん畑や公園の木々で季節の移り変わりを楽しむことができます	職員の目の届くところで、皆の声を聞きながら昼寝をしたり気持ちよく過ごせるようなソファの配置になっている。月ごとのイベント写真が壁に貼ってあり家族含め皆の話題作りに役立っている。夜間は安心して眠れるよう廊下の明かりは半分にし暗くしないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置きガラス越しに日光浴が出来、自由に休んで頂いています。テラスには椅子を置き外気浴やお茶を頂くこともしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅よりタンスやテレビ、仏壇等を自由に持ち込み頂き、ご本人にとって心地よく暮らせるように努めています。	家族と一緒に写真や好きな人形などがその人が見やすい位置に飾ってある。ベッドからトイレへ移動しやすく転倒し難い動線を考え、荷物を置くようにしている。直接エアコンの風が当たらないような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで個々の力を活かし、安全に心がけて支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム 桜の詩 2階		
所在地	静岡県清水区船越二丁目7-91		
自己評価作成日	平成 27年 11月 23日	評価結果市町村受理日	平成28年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日リハビリ体操やラジオ体操で身体を動かしています レクリエーションでは1・2階の入居者様合同でカルタ取りやボール遊びをしています ご家族やボランティアのご協力で音楽会を開催しています 天気の良い日は駐車場のベンチで1・2階の入居者様が外気浴やtrクリエーション、歩行訓練などを行っています 壁には毎月の貼り絵や行事の写真が掲示してあります 行事のようすはブログにも掲載しています ご家族には毎月入居者様の様子と桜の詩通信を郵送しています 入居者様は緑の中で四季を感じながら、のんびりと暮らしています
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=22</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 11月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加したり、ホームのイベントに来ていただいたり馴染みの関係性を続け、笑顔で明るい毎日が、その人らしく生活出来るような支援を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	玄関前の駐車場での外気浴や散歩に出掛けて地域の方々とのふれあいや、地域の夏祭りや防災訓練に参加したり、子ども神輿に寄っていただき、ホーム内に留まらず、繋がりが出来るよう心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外気浴を続け、地域の皆様と触れ合う機会をつくり、認知症への理解を深めています。町内の催し事にも参加をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第四土曜日と定め関係各所に年間のお知らせハガキを毎年送っています。会議ではご家族や市町村、地域の代表の方に参加頂き、ホームでの出来事を発表し、ご意見を伺っています。またその写真を掲示して、ご覧いただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	講演や研修等に参加している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束と思われる具体的な行為を職員全体で理解し拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠はしていない		

静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のカンファレンスや職員会議で話し合い、職員同士が声を掛け合える環境づくりを心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護は直接入居者様に関わっている事についての理解は出来ているが、深い理解は出来ていない。今年になって制度を解約された方がおられました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明はしているが改定等があった場合は前もって推進会議や通知書でお知らせしている。また直接お話しを伺い理解や納得を頂けるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族にはご意見等伺えるようにこちらから話し掛けるように努めている。意見や要望は職員、管理者が情報共有して話し合いの機会を設けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を日常的に聞く事に心がけ、その意見は毎月の管理者会議にて質問や提案をしている 入職者や入居希望者の紹介制度がある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その時々に入居者様の対応や職員の状況により就業環境の変更を行っている 資格取得のための就業環境整備や資質向上の為、毎月研修を行っている 資格取得による昇給がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修係りによる研修企画や外部からの研修情報を掲示している 毎月テーマによりホーム内外からの講師による研修が行われている 外部研修による報告発表も行っている		

静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携室を通しネットワークづくりを検討している。弊社の他ホームとは交流研修として出掛けている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や面会を行い、ご要望や質問等を伺い、少しでも安心して生活して頂けるように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学や自宅訪問、面接を行い、ご家族や入居者様にご要望や質問等を伺い、少しでも安心してご入居頂ける様に心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接により、ご本人やご家族の情報収集を行い、話し合いにより、一番必要な支援やサービスの提供が出来るように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持って介護支援をおこない、共に生活をする者同士が、四季の移り変わりを共に感じ、楽しみ喜び合える関係づくりに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様との心地よい環境を提供すると共に、ご本人様が笑顔で生活できる事をご家族様と共に話し合いながら支援出来るように努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも気軽に訪問できるように時間の制限は無く自由に面会して頂いている 季節ごとの挨拶状の支援も行っている 年間行事企画にも自由に参加頂いている		

静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しの合う入居者様同士を把握し、居心地の良い環境を提供している。1階2階の合同レクリエーションを行い皆様で楽しく関わりがもてるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節毎の挨拶状を送っている 必要に応じ、相談等を受けるように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の出来る入居者様は直接、意向や希望を伺い受け入れるよう努めている。意思確認が困難な入居者様には、その方の思いを汲み取り、御家族の意向も伺うよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活習慣や馴染みのある物等、情報収集や把握に努めている。 また自宅での生活環境を維持できるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活リズムを重視して見守り、生活機能の回復を図りながら個人の有する力の維持向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に話し合い場を持ち、入居者様にとってより良いケアが実践できるよう、日々のケアを通じて計画の見直しと確認を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察や気づき等は記録に残し、申し送りをする事で情報を共有している 状況の変化に応じて介護計画の変更を話し合っている		

静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の変化状況に対して、ご本人や御家族様、職員の意見を取り入れ、その状況に適したサービスを提供できるよう柔軟に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近隣の美容師によるヘアカットや桜ヶ丘高校の将棋クラブ、S型サービスに出掛けている入居者様など職員以外の協力により、生活を楽しむことが出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員の入居者様が月2回のホームクリニックの往診を受けている。毎日の訪問で相談や急変の対応ができ、安心されている。入居前からのかかりつけ医に通院されている方には、身体や生活の様子等の情報提供をしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が入り、入居者様全員の健康管理を行っている。一週間の情報提供をし、どの職員も気軽に相談できるような関係性を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームクリニックを介して病院や医師との情報交換ができています 入院中は病院に何度か出向き、ナースや担当医師から現状説明や相談を、受入れの準備等を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームクリニックとの契約により終末期の支援は可能となっているが、ご家族や主治医と相談の上で今後の方針を決めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署によるAED講習会に職員は積極的に参加するよう働きかけている 急変時の対応や異変の見分け方等、訪問看護師の研修会や対応のマニュアル化をしている		

静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、入居者とも毎月避難訓練を行なっている。 地域の防災訓練にも一部の入居者様と共に参加している 備蓄品の用意や入れ替え、災害時の運営計画等も進めている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員研修で接遇を学び、言葉遣いや人格の尊重について職員が互いに注意できる関係作り心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を重視している。 自己決定が出来ない場合は、具体的にどちらかを選択できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体でのレクリエーションを行う場合でも、体調やその時の様子、その他の希望がある場合は、ご本人の意思に添うように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師が訪れ、ご本人の希望するスタイルにカットしている 意思表示の出来る方には、ご本人の希望に添えるように支援している。意思表示の無い方には職員が季節や催事等に合わせて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の出来る力を活かした食事の準備や片付けをお願いしている。食事は個々に合った形状にし、無理のないように心掛けている 食事中は落ち着いて食事が出来るように音楽や職員の声掛けを心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事のバランスを考えて食事作りを行っている。水分や食事は記録し、職員全員が把握できるようにしている。また個々の状態に合わせて調整できるように努めている		



静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できている方の見守りや、義歯の脱着、洗浄、消毒、口腔内の洗浄等、その方に適したケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を時間ごとに記録し、排泄パターンの把握に努めている 個々に合わせた声掛けや誘導をし、トイレでの排泄が出来るよう様子観察をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい麦茶を100ccを飲んで頂いている。ホームドクターと相談し、腸の薬が処方され、便秘薬の処方を減らしている。午前中に体操や運動、散歩に出掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や行事、外出等で柔軟に対応している。季節や体調に合わせてシャワー浴をすることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後に休息の時間をとっている 入浴後にも、なるべく横になって休んで頂いている。昼間は身体を動かし、散歩に出掛けて夜間は眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬局と入居者様との契約により個々の管理を行っている。薬剤師と連携し服薬相談をしている。入居者様が使用している薬の説明や症状についてホーム内研修を行った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は皆様で体操やレクリエーション、個々の力に合わせた清掃を行っている。ゴミ袋折り、食器拭き、洗濯物のハンガー掛けや乾いた物を畳む仕事等、役割分担している。誕生会ではケーキや好きな物を伺い希望に添えるようにしている。		

静岡県(グループホーム桜の詩 2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は駐車場のベンチで1階2階の入居者様が交流し、外気浴をしています。また順番に散歩に出掛けています。長く歩けない方は車椅子で出掛けてます。個別や少人数での外食やドライブにも出掛けています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が必要なお金は預かり金としてお預かりしています。またお小遣いとして自室保管し、必要に応じて使用出来る様にしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの申し出により、ご家族と会話したり、季節の挨拶状等を送り、繋がりがもてるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には月ごとに季節に合った貼り絵を飾っています。また季節の行事で撮った写真も掲示しています。ホール内や脱衣所は過ごし易い温度設定とし、風向きにも注意しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの自席やソファー共に気の合った方々が寛げたり、大きなソファーが2台あるので1人で足を伸ばして横になる方もいらっしゃいます。エレベーターホールには長椅子を置き、ゆっくり寛ぐ事もでき、窓からは富士山を眺めることが出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談の上、ご本人が馴染んだもの、使いやすいもの、好んでいる物などを居室に入れていただいている。利便性を考慮しながら、御家族やご本人が居心地良く過ごせる工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、トイレは3箇所設置。個々の使い勝手が良いように、それぞれの方向や手摺りの位置を変えてある 居室は花の名前で表示し、記憶に残るようにしている		